

大学番号：私111

注3

[平成27年度設置]

計画の区分：学部の学科の設置

注1

届出

大正大学 文学部 日本文学科

注2

【届出】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人大正大学
平成28年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 学長室

職名・氏名	フチヨウホ、サ 部長補佐	・	ヤマダ	ヒデキ
	カカリチョウ 係長	・	ナガシマ 長島	ノリコ 法子

電話番号 03-5394-3025

（夜間） 03-3918-7311

F A X 03-5394-3068

e-mail kikaku@mail.tais.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には設置時の旧名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、現在の名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(◇◇学部(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- ・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- ・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- ・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- ・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- ・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 大学番号の欄については、平成28年3月30日付事務連絡「大学等の設置に係る設置計画履行状況報告書等の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

文学部

＜人文学科＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	3
2. 授業科目の概要	7
3. 施設・設備の整備状況、経費	20
4. 既設大学等の状況	22
5. 教員組織の状況	24
6. 留意事項等に対する履行状況等	37
7. その他全般的事項	38

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人大正大学

(2) 大学名

大正大学

(3) 大学の位置

〒170-8470
東京都豊島区西巣鴨三丁目20番1号

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(スギタニ ギジュン) 杉谷 義純 (平成21年3月)	(オカモト センジョウ) 岡本 宣丈 (平成27年3月)	任期満了に伴い平成27年3月30日変更(27)
学長	(カツザキ ユウゲン) 勝崎 裕彦 (平成25年4月)	(オオツカ ノブオ) 大塚 伸夫 (平成27年11月)	任期満了に伴い平成27年11月1日変更(28)
学部長	(オオバ アキラ) 大場 朗 (平成25年4月)	(コバヤシ シンジ) 小林 伸二 (平成28年4月)	任期満了に伴い平成28年4月1日変更(28)
学科長等	未定	(オオバ アキラ) 大場 朗 (平成28年4月)	任期満了に伴い平成28年4月1日変更(28)
		(ヤマウチ ヨウ) 山内 洋 (平成27年4月)	学部の学科の設置に伴い平成27年4月1日就任(27)

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成26年度に報告済の内容 → (26)

平成28年度に報告する内容 → (28)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
 ・ なお, 課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は, 法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
 ・ 様式は, 平成25年度開設の4年制の学科の場合(平成28年度までの4年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が3年以下の場合には欄を削除し, 5年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象学部等の名称, 定員

調査対象学部等の名称(学位)	設置時の計画				備考
	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
文学部 日本文学科 学士(日本文学)	4年	70人	— 年次人	280人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前の人数, 変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 ・ 学生募集停止を予定している場合は, 「備考」にその旨記載してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	対象年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	70 () []	— () []	70 () []	— () []	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []	1.18倍	
志願者数	559 () []	— () []	686 () []	— () []	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []		
受験者数	542 () []	— () []	677 () []	— () []	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []		
合格者数	179 () []	— () []	275 () []	— () []	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []		
B 入学者数	83 () []	— () []	83 () []	— () []	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []		
入学定員超過率 B/A	1.18		1.18									

- (注) ・ 数字は, 平成28年5月1日現在の数字を記入してください。
 ・ () 内には, 編入学の状況について**外数**で記入してください。なお, 編入学を複数年次で行っている場合には, (())書きとするなどし, その旨を「備考」に付記してください。該当がない年には「—」を記入してください。
 ・ [] 内には, 留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
 ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む。), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は, 春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は, その他の学期欄は「—」を記入してください。また, その他の学期に入学定員を設けている場合は, 備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については, **各年度の春季入学とその他を合計した入学定員, 入学者数で算出**してください。なお, 計算の際は**小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで記入**してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお, 計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

学 年	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	[-] (-) 83	[-] (-) -	[-] (-) 84	[-] (-) -	[] () -	[] () -	[] () -	[] () -	
2年次	/		[-] (-) 80	[-] (-) -	[] () -	[] () -	[] () -	[] () -	
3年次			/		[] () -	[] () -	[] () -	[] () -	
4年次					/		[] () -	[] () -	
計			[-] (-) 83	[-] (-) 164			[] () -	[] () -	

- (注) ・ 数字は、平成28年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ []内には、留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	入学者数(b)	退学者数(a)	退学者数(内訳)			主な退学理由	入学者数に 対する退学者数 の割合 (a/b)
			退学した年度	退学者数	退学者数の うち留学生数		
平成27年度 入学者	83 人	2 人	平成27年度	2 人	0 人	就学意欲の低下(2人)	0.0240964 %
			平成28年度	0 人	0 人		
			平成29年度	人	人		
			平成30年度	人	人		
平成28年度 入学者	83 人	0 人	平成28年度	0 人	0 人		0 %
			平成29年度	人	人		
			平成30年度	人	人		
平成29年度 入学者	人	0 人	平成29年度	人	人		#DIV/0! %
			平成30年度	人	人		
平成30年度 入学者	人	0 人	平成30年度	人	人		#DIV/0! %
合 計	166 人	2 人					0.0120482 %

(注)・数字は、平成28年5月1日現在の数字を記入してください。

- 各年度の入学者数については、該当年度当初に入学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要はありません。)
- 各年度の退学者数については、退学年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
- 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
- 「入学者数に対する退学者数の割合」は、【当該対象年度の入学者のうち、平成28年5月1日現在までに退学した学生数の合計】を、【当該対象年度の入学者数】で除した割合(%)を記入してください。その際、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを記入してください。
- 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
 (記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

2 授業科目の概要

<文学部 日本文学科>

(1) 授業科目表

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単 位 数			専 任 教 員 等 の 配 置					備 考	
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
第I類科目 学びの窓口 文化	文化の探究A	1・2・3・4前修 1・2・3前修 1→2後		2								兼 2 教育効果の観点から配当年次・担当者を変更 (27) 山梨有希子 (兼任) → 司馬春英 (兼任) 教育効果の観点から配当年次を変更 (28)
	文化の探究B	1・2・3・4前修 1・2・3前修 1→2前		2								兼 2 教育効果の観点から配当年次を変更 (27) 教育効果の観点から配当年次を変更 (28)
	文化の探究C	1・2・3・4前修 1・2・3前修 1→2前		2								兼 2 教育効果の観点から配当年次・担当者を変更 (27) 三浦龍昭 (兼任) → 中川仁喜 (兼任) 教育効果の観点から配当年次を変更 (28)
	文化の探究D	1・2・3・4前修 1・2・3前修 1→2後		2								兼 2 教育効果の観点から配当年次・担当者を変更 (27) 宮寄洋一 (兼任) → 椎名一雄 (兼任) 教育効果の観点から配当年次を変更 (28)
	文化の探究E	1・2・3・4後 1・2・3前修 1→2前		2		1	2					兼 2 兼 1 教育効果の観点から配当年次・担当者を変更 (27) 伊藤雅光 (教授) → 伊藤淑子 (兼任) 教育効果の観点から配当年次・担当者を変更 (28) 大場朗 (教授) → 由井恭子 (兼任)
	文化の探究F	1・2・3・4後 1・2・3前修 1→2後		2				1				兼 1 教育効果の観点から配当年次・担当者を変更 (27) 伊藤淑子 (兼任) → 大野道夫 (兼任) 教育効果の観点から配当年次・担当者を変更 (28) 大野道夫 (兼任) → 神達知純 (兼任) 適正人数を考慮し担当者を減 (28) 梅澤亜由美 (准教授)
	文化の探究G	1・2・3・4前修 1・2・3前修 1→2前		2								兼 2 教育効果の観点から配当年次・担当者を変更 (27) 元山公寿 (兼任) → 小林靖典 (兼任) 教育効果の観点から配当年次・担当者を変更 (28) 小林靖典 (兼任) → 阿部貴子 (兼任)

第Ⅰ類科目	学びの窓口	文化	文化の探究 H	1・2・3・4期 1・2・3期後 1・2後	2							兼 2	教育効果の観点から配当年次・担当者を変更 (27) 元山公寿 (兼担) → 木村周誠 (兼担) 勝野隆広 (兼担) → 曾根宣雄 (兼担) 教育効果の観点から配当年次を変更 (28)	
			文化の探究 I	1・2・3・4期 1・2・3期前 1・2前	2							兼 2	教育効果の観点から配当年次を変更 (27) 教育効果の観点から配当年次を変更 (28)	
			小計 (9科目)	—	0	18	0	0	0	0	0	兼 16 兼 15 兼 12		
		社会	社会の探究 A	1・2・3・4期 1・2・3期後 1・2前	2								兼 2	教育効果の観点から配当年次・担当者を変更 (27) 西郷泰之 (兼担) → 齋藤富由起 (兼任) 教育効果の観点から配当年次を変更 (28)
			社会の探究 B	1・2・3・4期 1・2・3期後 1・2後	2								兼 2	教育効果の観点から配当年次・担当者を変更 (27) 青木聡 (兼担) → 齋藤富由起 (兼任) 教育効果の観点から配当年次を変更 (28)
			社会の探究 C	1・2・3・4期 1・2・3期前 1・2前	2								兼 2	教育効果の観点から配当年次・担当者を変更 (27) 石原康臣 (兼担) → 松崎泰弘 (兼任) 成瀬活雄 (兼担) → 大平雅美 (兼任) 教育効果の観点から配当年次を変更 (28)
			社会の探究 D	1・2・3・4期 1・2・3期後 1・2後	2								兼 1 兼 2	教育効果の観点から配当年次を変更 (27) 適正人数を考慮し担当者を減 (27) 大平雅美 (兼任) 教育効果の観点から配当年次を変更 (28)
			社会の探究 E	1・2・3・4期 1・2・3期後 1・2後	2								兼 2	教育効果の観点から配当年次を変更 (27) 教育効果の観点から配当年次・担当者を変更 (28) 弓山達也 (兼担) → 鈴木晋怜 (兼任)
			社会の探究 F	1・2・3・4期 1・2・3期後 1・2前	2								兼 2	教育効果の観点から配当年次・担当者を変更 (27) 弓山達也 (兼担) → 鈴木晋怜 (兼任) 教育効果の観点から配当年次を変更 (28)
			社会の探究 G	1・2・3・4期 1・2・3期後 1・2後	2								兼 1	教育効果の観点から配当年次を変更 (27) 教育効果の観点から配当年次を変更 (28)

第I類科目	社会	社会の探究H	1・2・3・4前 1・2・3前後 1・2前	2							兼1	教育効果の観点から配当年次・担当者を変更 (27) 松崎慈恵 (兼任) →岡田理樹 (兼任) 教育効果の観点から配当年次を変更 (28)	
		社会の探究I	1・2・3・4前 1・2・3前後 1・2前	2							兼2 兼4	教育効果の観点から配当年次を変更 (27) 適正人数を考慮し担当者を追加 (27) 担当 窪田新一 (兼任) 就任辞退のため担当者を変更 (28) 松崎慈恵 (兼任) →高橋正弘 (兼任)	
		小計 (9科目)	—	0	18	0	0	0	0	0	0	兼12 兼11	
	学 び の 窓 口	自然	自然の探究A	1・2・3・4前 1・2・3前後 1・2後	2							兼3 兼2	教育効果の観点から配当年次を変更 (27) 教育効果の観点から配当年次を変更 (28) 適正人数を考慮し担当者を追加 (28) 田沼晴彦 (兼任)
			自然の探究B	1・2・3・4前 1・2・3前後 1・2前	2							兼2 兼1	教育効果の観点から配当年次・担当者を変更 (27) 高橋秀裕 (兼任) →内田英二 (兼任) 適正人数を考慮し担当者を追加 (27) 担当 松田早苗 (兼任) 就任辞退のため担当者を変更 (28) 松田早苗 (兼任) →篠原優子 (兼任)
			自然の探究C	1・2・3・4前 1・2・3前後 1・2前後	2							兼2	教育効果の観点から配当年次を変更 (27) 就任辞退のため担当者を変更 (27) 中西明美 (兼任) →稲葉明子 (兼任) 教育効果の観点から配当年次を変更 (28)
			自然の探究D	1・2・3・4前 1・2・3前後 1・2前	2							兼1	教育効果の観点から配当年次を変更 (27) 教育効果の観点から配当年次を変更 (28)
			自然の探究E	1・2・3・4前 1・2・3前後 1・2後	2							兼1	教育効果の観点から配当年次・担当者を変更 (27) 原芳生 (兼任) →勝井恵子 (兼任) 教育効果の観点から配当年次を変更 (28)
			自然の探究F	1・2・3・4前 1・2・3前後 1・2後	2							兼1	教育効果の観点から配当年次・担当者を変更 (27) 高橋秀裕 (兼任) →室山哲也 (兼任) 教育効果の観点から配当年次を変更 (28)

第Ⅰ類科目	学びの窓口	自然	自然の探究 G	1・2・3・4前 1・2・3前後 1・2前	2								兼 2 兼 1	教育効果の観点から配当年次を変更 (27) 教育効果の観点から配当年次を変更 (28) 適正人数を考慮し担当者を追加 (28) 生方秀紀 (兼任)	
			自然の探究 H	1・2・3・4後 1・2・3後 1・2前	2									兼 1	教育効果の観点から配当年次を変更 (27) 教育効果の観点から配当年次を変更 (28)
			自然の探究 I	1・2・3・4前 1・2・3前 1・2後	2									兼 1	教育効果の観点から配当年次を変更 (27) 教育効果の観点から配当年次を変更 (28)
		小計 (9科目)	—	0	18	0	0	0	0	0	0	0	兼 12 兼 10 兼 7		
		地域	地域連携・貢献論 地域連携貢献論 A	1・2・3・4前 1前後	2									兼 2	科目名称を変更 (27) 教育効果の観点から配当年次を変更 (28)
	小計 (1科目)	—	2	0	0	0	0	0	0	0	0	兼 2			
	学びの技法	基礎科目	基礎技法 A-1	1前	2				1 2 3					兼 1	適正人数を考慮し担当者を減 (27) 梅澤 (山中) 亜由美 (准教授) 教育効果の観点から担当者を変更 (28) 山本章博 (准教授) → 中川秀太 (兼任)
			基礎技法 A-2	1後	2				3					兼 1 兼 2	教育効果の観点から担当者を変更 (27) 山内洋 (准教授) → 坂巻理恵子 (兼任) 梅澤 (山中) 亜由美 (准教授) → 近藤秀和 (兼任) 適正人数を考慮し担当者を減 (27) 山本章博 (准教授) 教育効果の観点から担当者を変更 (28) 坂巻理恵子 (兼任) → 齋藤知明 (兼任) 適正人数を考慮し担当者を減 (28) 近藤秀和 (兼任)
			基礎技法 A-3	2前	2				3					兼 3	教育効果の観点から担当者を変更 (27) 山内洋 (准教授) → 畠山仁男 (兼任) 梅澤 (山中) 亜由美 (准教授) → 高橋若木 (兼任) 山本章博 (准教授) → 齋藤知明 (兼任) 教育効果の観点から担当者を変更 (28) 高橋若木 (兼任) → 日下田岳史 (兼任)
			基礎技法 A-4	2後	2			1	2 3					兼 1	適正人数を考慮し担当者を減 (27) 山本章博 (准教授) 教育効果の観点から担当者を変更 (28) 山内洋 (准教授) → 小嶋知善 (教授) 梅澤 亜由美 (准教授) → 中川秀太 (兼任)
基礎技法 B-1			1前	2									兼 2		

第Ⅰ類科目	学 び の 技 法	基 礎 科 目	基礎技法B-3	2前	2						兼 2			
			基礎技法B-4	2後	2							兼 2		
				1前後										
			基礎技法C	1前	2							兼 2	教育効果の観点から配当年次を変更 (27) 退職により担当者を変更 (27) 馬場敏見 (兼任) → 霜村靉真 (兼任)	
				1前後										教育効果の観点から配当年次を変更 (28)
			英語 1	1前	1							兼 2	教育効果の観点から担当者を変更 (27) 長島潤道 (兼任) → ビーター ライリー (兼任)	
				1前後										教育効果の観点から担当者を変更 (28) 山田潤治 (兼任) → 大塚道子 (兼任)
			英語 2	1後	1							兼 2	教育効果の観点から担当者を変更 (27) 長島潤道 (兼任) → ビーター ライリー (兼任)	
				1前後										教育効果の観点から担当者を変更 (28) 山田潤治 (兼任) → 大塚道子 (兼任)
			英語 3	2前	1							兼 2	教育効果の観点から担当者を変更 (27) 長島潤道 (兼任) → ビーター アニヨン (兼任)	
				2前後										教育効果の観点から担当者を変更 (28) 山田潤治 (兼任) → 大塚道子 (兼任)
			英語 4	2後	1							兼 2	教育効果の観点から担当者を変更 (27) 長島潤道 (兼任) → ビーター アニヨン (兼任)	
				2前後										教育効果の観点から担当者を変更 (28) 山田潤治 (兼任) → 大塚道子 (兼任)
				1・2・3・4前後								兼 1		
基礎国語A	2・3前	2							兼 2	教育効果の観点から配当年次を変更 (27) 教育効果の観点から担当者を変更 (27) 魚尾孝久 (兼任) → 坂巻理恵子 (兼任) 就任辞退のため担当コマ数を振り替え (27) 伊藤優子 (兼任) → 坂巻理恵子 (兼任)				
	1・2・3・4前													
基礎国語B	2・3後	2			1				兼 1	教育効果の観点から配当年次・担当者を変更 (27) 大場朗 (教授) → 由井 (荻原) 恭子 (兼任)				
	1・2・3・4前													
基礎数学Ⅰ	1前	2							兼 1	教育効果の観点から配当年次を変更 (27) 教育効果の観点から配当年次を変更 (28)				
	1・2前後													
基礎数学Ⅱ	1後	2							兼 1	教育効果の観点から配当年次を変更 (27) 教育効果の観点から配当年次を変更 (28)				
	1・2前後													
基礎数学Ⅲ	2前	2							兼 1	教育効果の観点から配当年次を変更 (27) 教育効果の観点から配当年次を変更 (28)				
	1・2・3・4前													
基礎数学Ⅳ	2後	2							兼 1	教育効果の観点から配当年次を変更 (27) 教育効果の観点から配当年次を変更 (28)				
	1・2・3・4後													
	2・3前後													

第Ⅰ類科目	学 び の 技 法	基 礎 科 目	基礎社会Ⅰ	1・2・3・4期 1前 1→2前後	2							兼 1	教育効果の観点から配当年次を変更 (27) 教育効果の観点から配当年次を変更 (28)		
			基礎社会Ⅱ	1・2・3・4期 1後 1→2前後	2							兼 1	教育効果の観点から配当年次を変更 (27) 教育効果の観点から配当年次を変更 (28)		
			基礎社会Ⅲ	1・2・3・4期 2前 2→3前後	2							兼 1	教育効果の観点から配当年次を変更 (27) 教育効果の観点から配当年次を変更 (28)		
			基礎社会Ⅳ	1・2・3・4期 2後 2→3前後	2							兼 1	教育効果の観点から配当年次を変更 (27) 教育効果の観点から配当年次を変更 (28)		
			小計 (23科目)	—	22	12	8	1 0 +	1 3	0	0	0	兼 13 兼 10		
	展 開 科 目	展 開 科 目	情報処理A-1 (ワード)	1・2・3・4期 1→2前 1→2前後	2								兼 2	教育効果の観点から配当年次を変更 (27) 就任辞退のため担当者を変更 (27) 馬場敏見 (兼任) → 近内久美子 (兼任) 教育効果の観点から配当年次を変更 (28)	
			情報処理A-2 (ワード)	1・2・3・4期 未開講 1→2前後	2								兼 1 兼 2	履修希望者が少数のため未開講 (27) 就任辞退のため担当コマ数を振り替え (27) 馬場敏見 (兼任) → 霜村叡真 (兼任) 教育効果の観点から配当年次を変更 (28)	
			情報処理B-1 (エクセル)	1・2・3・4期 1→2前 1→2前後	2									兼 2	教育効果の観点から配当年次を変更 (27) 就任辞退のため担当者を変更 (27) 馬場敏見 (兼任) → 藤井佐和子 (兼任) 教育効果の観点から配当年次を変更 (28)
			情報処理B-2 (エクセル)	1・2・3・4期 未開講 1→2前後	2									兼 1 兼 2	履修希望者が少数のため未開講 (27) 就任辞退のため担当コマ数を振り替え (27) 馬場敏見 (兼任) → 山下裕一郎 (兼任) 教育効果の観点から配当年次を変更 (28)
			情報処理C (プレゼンテーション)	1・2・3・4期 1→2前 1→2前後	2									兼 1 兼 2	教育効果の観点から配当年次を変更 (27) 教育効果の観点から担当者を変更。担当コマ数を振り替え (27) 近内久美子 (兼任) → 藤井佐和子 (兼任) 教育効果の観点から配当年次を変更 (28)

第I類科目	学 び の 技 法	展 開 科 目	情報処理D (データベース)	未開講 ←→4後 1・2前後	2							兼1	履修希望者が少数のため未開講 (27) 就任辞退のため担当者を変更 (27) 馬場敏見 (兼任) →後任未定 履修希望者が少数のため未開講 (28) 教育効果の観点から配当年次を変更 (28) 後任未定→霜村叡真 (兼任)		
			応用英語 1	2・3前	1							兼1			
			応用英語 2	2・3後	1									兼1	
			世界の言語 (中国語) 1	1・2前	1									兼2	退職のため担当者を変更 (27) 森山真樹子 (兼任) →漆紅 (兼任)
			世界の言語 (中国語) 2	1・2後	1									兼2	退職のため担当者を変更 (27) 森山真樹子 (兼任) →漆紅 (兼任)
			世界の言語 (中国語) 3	2・3前	1									兼2	退職のため担当者を変更 (27) 森山真樹子 (兼任) →清水浩子 (兼任)
			世界の言語 (中国語) 4	2・3後	1									兼2	退職のため担当者を変更 (27) 森山真樹子 (兼任) →清水浩子 (兼任)
			世界の言語 (フランス語) 1	1・2前	1									兼1	
			世界の言語 (フランス語) 2	1・2後	1									兼1	
			世界の言語 (フランス語) 3	2・3前	1									兼1	
			世界の言語 (フランス語) 4	2・3後	1									兼1	
			世界の言語 (ドイツ語) 1	1・2前	1									兼2	逝去のため担当者を変更 (27) シャウマン ヴェルナー (兼担) →倉西憲一 (兼任) 就任辞退のため担当者を変更 (27) 宮嶋俊一 (兼任) →重野純子 (兼任)
			世界の言語 (ドイツ語) 2	1・2後	1									兼2	逝去のため担当者を変更 (27) シャウマン ヴェルナー (兼担) →倉西憲一 (兼任) 就任辞退のため担当者を変更 (27) 宮嶋俊一 (兼任) →重野純子 (兼任)
			世界の言語 (ドイツ語) 3	2・3前	1									兼1 兼2	逝去のため担当者を変更 (27) シャウマン ヴェルナー (兼担) →倉西憲一 (兼任) 就任辞退・適正人数を考慮し担当者を減 (27) 宮嶋俊一 (兼任)
			世界の言語 (ドイツ語) 4	2・3後	1									兼1 兼2	逝去のため担当者を変更 (27) シャウマン ヴェルナー (兼担) →重野純子 (兼任) 就任辞退・適正人数を考慮し担当者を減 (27) 宮嶋俊一 (兼任)
			世界の言語 (韓国語) 1	1・2前	1									兼1	
			世界の言語 (韓国語) 2	1・2後	1									兼1	
			世界の言語 (韓国語) 3	2・3前	1									兼1	
			世界の言語 (韓国語) 4	2・3後	1									兼1	
			世界の言語 (スペイン語) 1	1・2前	1									兼1	
			世界の言語 (スペイン語) 2	1・2後	1									兼1	
			世界の言語 (スペイン語) 3	2・3前	1									兼1	
			世界の言語 (スペイン語) 4	2・3後	1									兼1	

第I類科目	学 び の 技 法	展 開 科 目	世界の言語（ヒンディ語） 1	1・2前	1							兼 1			
			世界の言語（ヒンディ語） 2	1・2後	1								兼 1		
			世界の言語（ヒンディ語） 3	2・3前	1									兼 1	
			世界の言語（ヒンディ語） 4	2・3後	1									兼 1	
			英会話 I	1・2前	2									兼 2	退職のため担当者を変更 (27) ハンソン リーバイ (兼担) →シェリー ピアーズ (兼任)
			英会話 II	1・2後	2									兼 2	退職のため担当者を変更 (27) ハンソン リーバイ (兼担) →シェリー ピアーズ (兼任)
			英会話 III	2・3前	2									兼 2	退職のため担当者を変更 (27) ハンソン リーバイ (兼担) →シェリー ピアーズ (兼任)
			英会話 IV	2・3後	2									兼 2	退職のため担当者を変更 (27) ハンソン リーバイ (兼担) →シェリー ピアーズ (兼任) 教育効果の観点から担当者を変更 (27) レスリー コーブランド (兼任) →ピーター アニョン (兼任)
			中国語会話 I	1・2・3前 2・3前	2									兼 1	教育効果の観点から配当年次を変更 (27)
			中国語会話 II	1・2・3後 2・3後	2									兼 1	教育効果の観点から配当年次を変更 (27)
			ドイツ語会話 I	1・2・3前 2・3前	2									兼 1	教育効果の観点から配当年次を変更 (27)
			ドイツ語会話 II	1・2・3後 2・3後	2									兼 1	教育効果の観点から配当年次を変更 (27)
			文章技法 A	2・3・4前後 3前後	2									兼 2	教育効果の観点から配当年次を変更 (27) 就任辞退のため担当者を変更 (27) 白寄まゆみ (兼任) →鈴木治子 (兼任) 教育効果の観点から担当者を変更 (28) 鈴木治子 (兼任) →西田みどり (兼任)
			文章技法 B	2・3・4前後 3前後	2									兼 1	教育効果の観点から配当年次を変更 (27)
			技法 A (論理力)	2・3・4後 3前後	2									兼 1	教育効果の観点から配当年次を変更 (27) 就任辞退のため担当者を変更 (27) 伊藤優子 (兼任) →由井 (荻原) 恭子 (兼任)
			技法 B (自己アピール)	2・3・4後 3前後	2									兼 1	教育効果の観点から配当年次を変更 (27)
			教養ゼミ(ショートプログラム)	1・2・3・4後	0.5									兼 1	教育の質の向上を目的として科目を追加 (27) 教育効果の観点から科目を削除 (28)
			小計 (44科目)		62									兼 24	
			小計 (45科目)		62.5									兼 24	
			小計 (44科目)	—	0	62	0	0	0	0	0	0	0	兼 23	
			留 学 生 科 目	日本語研究 A	1・2前後	2			1						兼 1
日本語研究 B	1・2前後	2										兼 1			
日本語研究 C	1・2前後	2										兼 1			
日本語研究 D	1・2前後	2										兼 1			
日本語研究 E	1・2前後 1・2前 1・2前後	2										兼 2 兼 4	教育効果の観点から配当年次を変更 (27) 適正人数を考慮し担当者を追加 (28) 綱島珠美 (兼任)		

第 I 類科目	留学生科目	日本語研究 F	1・2前後		2							兼 1	適正人数を考慮し担当者を追加 (28) 漆紅 (兼任)	
		日本語研究 G	1・2前後		2							兼 2 兼 1		
		日本語研究 H	1・2前後		2							兼 1		
		日本語研究 I	未開講		2							兼 1		履修希望者が少数のため未開講 (27)
		日本語研究 I	1・2前後		2							兼 1		履修希望者が少数のため未開講 (28)
		日本文化研修	1・2前		2							兼 1		学長任期満了のため担当者変更 (28) 勝崎裕彦 (兼任) → 大塚伸夫 (兼任)
		小計 (10科目)	—	0	20	0	0	1	0	0	0	兼 4 兼 2		

第Ⅱ類科目	基礎部門	基礎ゼミナールⅠ	1前	2			2 +	2 3				兼 1	教育効果の観点から担当者を変更 (28) 山本章博 (准教授) → 大場朗 (教授) 伊藤雅光 (教授) → 中川秀太 (兼任)		
		基礎ゼミナールⅡ	1後	2			2 +	2 3				兼 1	教育効果の観点から担当者を変更 (28) 山本章博 (准教授) → 大場朗 (教授) 伊藤雅光 (教授) → 中川秀太 (兼任)		
		基礎ゼミナールⅢ	2前	2			1	3	2			兼 1	教育効果の観点から担当者を変更 (28) 山内洋 (准教授) → 安原真琴 (兼任)		
		基礎ゼミナールⅣ	2後	2			1	3	2			兼 1	教育効果の観点から担当者を変更 (28) 山内洋 (准教授) → 安原真琴 (兼任)		
		日本文化総論	1後		2		1								
		日本文学基礎論	1前		2		1								
		日本語基礎論	1前		2		1								
		哲学・思想基礎論	1後		2								兼 1	教育効果の観点から担当者を変更 (28) 臼木悦生 (兼任) → 司馬春英 (兼任)	
		宗教文化論	1前		2								兼 1		
		カルチュラルスタディーズ総論	1後		2								兼 1	教育効果の観点から配当年次を変更 (27)	
		文化人類学	1前		2								兼 1		
		表現文化論	1前		2								兼 1	教育効果の観点から担当者を変更 (27) 山田潤治 (兼任) → 伏木香織 (兼任)	
		小計 (12科目)	—	8	16	0	3	3	0	0	0		兼 7 兼 5		
		第Ⅱ類科目	専門別部門	基礎日本文学Ⅰ	1・2前		2		1					兼 1	所属異動に伴い配置を変更 (28) 小嶋知善 (兼任) → (教授)
				基礎日本文学Ⅱ	1・2後		2		1					兼 1	所属異動に伴い配置を変更 (28) 小嶋知善 (兼任) → (教授)
基礎日本文学Ⅲ	1・2前				2				1						
基礎日本文学Ⅳ	1・2後				2				1						
基礎日本語Ⅰ	1・2前				2							兼 1			
基礎日本語Ⅱ	1・2後				2							兼 1			
基礎日本語Ⅲ	1・2前				2		1								
基礎日本語Ⅳ	1・2後				2		1								
古典文学研究Ⅰ	2・3前				2				1						
古典文学研究Ⅱ	2・3後				2				1						
古典文学研究Ⅲ	2・3前				2		2								
古典文学研究Ⅳ	2・3後				2		2								
古典文学研究Ⅴ	2・3前				2							兼 1			
古典文学研究Ⅵ	2・3後				2							兼 1			
古典文学研究Ⅶ	2・3前				2		1						教育の質の向上を目的として科目を追加 (27)		
古典文学研究Ⅷ	2・3後				2		1						教育の質の向上を目的として科目を追加 (27)		
詩歌研究Ⅰ	2・3前				2							兼 1			
詩歌研究Ⅱ	2・3後				2							兼 1			
近代文学研究Ⅰ	2・3前		2				1								
近代文学研究Ⅱ	2・3後		2				1								
近代文学研究Ⅲ	2・3前		2			1				兼 1	所属異動に伴い配置を変更 (28) 小嶋知善 (兼任) → (教授)				
近代文学研究Ⅳ	2・3後		2			1				兼 1	所属異動に伴い配置を変更 (28)				

第Ⅱ類科目	専門別部門	近代文学研究Ⅴ	2・3前		2						兼1			
		近代文学研究Ⅵ	2・3後		2						兼1			
		日本語学研究Ⅰ	2・3前		2						兼1			
		日本語学研究Ⅱ	2・3後		2						兼1			
		日本語学研究Ⅲ	2・3前		2						兼1			
		日本語学研究Ⅳ	2・3後		2						兼1			
		音声学研究Ⅰ	2・3前		2						兼1	就任辞退のため担当者を変更(28)		
		音声学研究Ⅱ	2・3後		2						兼1	梅谷博之(兼任)→岡田薫(兼任) 就任辞退のため担当者を変更(28)		
		言語学研究Ⅰ	2・3前		2						兼1	梅谷博之(兼任)→岡田薫(兼任) 就任辞退のため担当者を変更(28)		
		言語学研究Ⅱ	2・3後		2						兼1	梅谷博之(兼任)→木村義之(兼任) 就任辞退のため担当者を変更(28)		
		仏教文学Ⅰ	未開講 2・3前		2		1						担当者体調不良の為未開講(28) 三角洋一(教授)	
		仏教文学Ⅱ	2・3後		2		1							
		日本漢文学	2・3前		2		4	1					体調不良の為担当者を変更(28) 三角洋一(教授)→山本章博(准教授)	
		日本文学課題研究Ⅰ	3前		2		1	3				兼1		
		日本文学課題研究Ⅱ	3後		2		1	3				兼1		
		日本文学課題研究Ⅲ	4前		2		1	3				兼1		
		日本文学課題研究Ⅳ	4後		2		1	3				兼1		
		日本語学課題研究Ⅰ	3前		2		1					兼1		
		日本語学課題研究Ⅱ	3後		2		1					兼1		
		日本語学課題研究Ⅲ	4前		2		1					兼1	教育効果の観点から担当者を変更(27)	
		日本語学課題研究Ⅳ	4後		2		1					兼1	山本真吾(兼任)→岡田薫(兼任) 教育効果の観点から担当者を変更(27)	
		小計(43科目)				86		4					兼7	
		小計(41科目)		0		82	0	3	3	0	0	0	兼8	
		関連教職部門	書写技術研究A	2・3・4前		2							兼1	
			書写技術研究B	2・3・4後		2							兼1	
			小計(2科目)		0	4	0	0	0	0	0	0	兼1	
			卒業論文	4通	8			4	3					
			小計(1科目)		8	0	0	4	3	0	0	0	0	
		合計			40	254	8	4	3	0	0	0	兼87	
						254.5		4					兼81	
						250		3					兼71	

- (注) ・ 認可申請書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 設置認可時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。その上で、前年度報告時(平成27年度に認可された大学等は設置認可時)より変更されているものは赤字見え消し修正し、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
 なお、昨年度の報告書において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 兼任、兼任の教員が担当する授業科目については、備考欄に担当する教員数を「兼〇」と記入してください。
 - ・ 授業科目を追加又は内容を変更する場合で、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては、「専任教員採用等設置計画変更書」の審査予定年月等を「備考」に記入してください。(今後審査を受ける場合には、「平成〇年〇月 提出予定」と記入してください。)
 - ・ 「配当年次」について、設置認可申請時に開講時期を記入する必要がなかった学部等(平成19年度認可以前)についても、設置認可時の状況を黒字で記入してください。また、前年度報告時より修正があれば、赤字で見え消し修正をしてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
科目 19	科目 138	科目 4	科目 161	科目 19	科目 140	科目 4	科目 163	
				[0]	[2]	[0]	[2]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[]内に、届出時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)
- ・ 資格に関する課程など、別課程としている授業科目については算入する必要はありません。

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	仏教文学 I	2	2・3	専門	選択	担当者体調不良のため
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず, 何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については, 記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は, 「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり, 何らかの理由で廃止(教育課程から削除)した授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は, 「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

緊急対応のため、休講にて対応する。
 学生にはポータルサイトおよび授業内で周知。

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目と廃止科目の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計}} = \boxed{0.01}$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位までを記入してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考		
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	校舎敷地の内 21,135.55㎡ は(学)佛教教 育学園から貸与 [貸与期間] H24.4.1から 20年間 届出時における校舎敷 地の算出に誤りがあっ たため(27)		
	校 舎 敷 地	36,416㎡ 41,034㎡	0㎡	0㎡	36,416㎡ 41,034㎡			
	運 動 場 用 地	31,429㎡	0㎡	0㎡	31,429㎡			
	小 計	67,844㎡ 72,463㎡	0㎡	0㎡	67,844㎡ 72,463㎡			
	そ の 他	5,036㎡ 287㎡	0㎡	0㎡	5,036㎡ 287㎡			
	合 計	72,880㎡ 72,750㎡	0㎡	0㎡	72,880㎡ 72,750㎡			
(2) 校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	届出時における校舎面 積の算出に誤りがあっ たため(27)		
		46,878㎡ 57,676㎡ (46,878㎡) (57,676㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	46,878㎡ 57,676㎡ (46,878㎡) (57,676㎡)			
(3) 教 室 等		講 義 室 78室 80室 70室	演 習 室 54室 49室	実 験 実 習 室 26室 11室	情 報 処 理 学 習 施 設 4室 (補助職員 1人) (補助職員 2人)	語 学 学 習 施 設 0室 (補助職員 0人)	大学全体 教室等の用途変更・補 助職員退職のため (27) 教室等の用途変更のため (28)	
(4) 専任教員研究室		新設学部等の名称		室 数		(例) 平成28年4月 専任教授1名を新規 採用のため(28)		
		日本文学科		7 室				
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等 の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機 械 ・ 器 具 点	標 本 点	電子ジャーナル、視聴覚資 料は、大学全体で共用 利用実績に基づく受け 入れ計画の変更(27) 利用実績に基づく受け 入れ計画の変更(28)
	日本文学部	18,461〔238〕	12,636〔41〕	28〔12〕	20,232	0	0	
		19,303〔249〕	12,600〔41〕	18〔12〕	21,277			
		(17,557〔215〕)	(11,734〔38〕)	26〔0〕	21,504			
		(17,342〔215〕)	(11,696〔38〕)	(28〔12〕)	(20,232)			
	計	(18,556〔221〕)	(11,693〔38〕)	(16〔0〕)	(20,358)	(0)	(0)	
	(18,556〔221〕)	(11,693〔38〕)	(25〔0〕)	(20,500)	(0)	(0)		
(6) 図 書 館	面 積		閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		書架・書庫の改修のため(27)	
	5,656㎡		426 428		688,167 623,417			

(7) 体 育 館	面 積			体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体	
	1,313㎡ 2,911㎡			野球場、テニスコート					
(8) 経費の見積り及び 維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	図書費には電子ジャーナル・データベースの整備費（運用コスト含む）を含む。
		教員1人当り研究費等	400千円	400千円	図書購入費	96,000千円	96,000千円	96,000千円	
	共同研究費等	11,000千円	11,000千円	設備購入費	9,776千円	9,000千円	9,000千円	学生納付金の改訂のため(27)	
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
1,150千円 1,080千円		950千円 900千円	950千円 900千円	950千円 900千円	— 千円	— 千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常費補助金、寄付金（設立宗派・同窓会・寺院関係者）、手数料（入学検定料等）、資産運用収入 等						

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号（その1の1）に準じて作成してください。（複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。）
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨（所要時間・距離等）を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成28年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(28)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更（校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延）がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。

4 既設大学等の状況

大学の名称	大 正 大 学								備 考
既設学部等の名称	修業 年限	入 定 学 員	編入学 定 員	収 容 定 員	学位又 は称号	平均入 学定員 超過率	開 設 年 度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			
仏教学部 仏教学科	4	100	3年次 25	450	学士（仏教学）	1.10 1.10	平成22年度	東京都豊島区西 巢鴨三丁目20番 1号	
人間学部 仏教学科	4	—	—	—	学士（仏教学）	—	平成5年度		平成22年より学生募集停止
社会福祉学科	4	80	—	320	学士（社会福祉学）	1.16	平成5年度		
人間環境学科	4	55	—	235	学士（人間環境学）	1.12	平成23年度		平成28年度入学定員減（△5人）
臨床心理学科	4	—	3年次 5	—	学士（臨床心理学）	—	平成21年度		平成28年より学生募集停止
人間科学科	4	—	3年次 3	—	学士（人間科学）	—	平成12年度		平成28年より学生募集停止
教育人間学科	4	60	3年次 3	261	学士（教育人間学）	1.19	平成23年度		平成28年度入学定員減（△5人）
心理社会学部 人間科学科	4	120	—	120	学士（人間科学）	1.18 1.20	平成28年度		
臨床心理学科	4	110	—	110	学士（臨床心理学）	1.16	平成28年度		
文学部 表現文化学科	4	—	—	—	学士（表現文化）	—	平成15年度		平成22年より学生募集停止
人文学科	4	70	3年次 3	426	学士（人文学）	1.15	平成22年度		平成25年度入学定員増（40人） 平成27年度入学定員減（△70人）
日本文学科	4	70	—	140	学士（日本文学）	1.18	平成27年度		平成27年度設置70人
歴史学科	4	160	3年次 3	646	学士（歴史学）	1.18	平成15年度		平成24年度入学定員増（25人）
表現学部 表現文化学科	4	200	3年次 3	806	学士（表現文化）	1.22 1.22	平成22年度		
地域創生学部 地域創生学科	4	100	—	100	学士（経済学）	0.62 0.62	平成28年度		平成28年度設置100人

仏教学研究科								東京都豊島区西 巢鴨三丁目20番 1号	
仏教学専攻									
博士前期課程	2	30	—	60	修士（仏教学）	0.86	平成13年度		
博士後期課程	3	7	—	21	博士（仏教学）	0.66	平成13年度		
人間学研究科									
社会福祉学専攻									
修士課程	2	5	—	10	修士（社会福祉学）	0.80	平成13年度		
臨床心理学専攻									
修士課程	2	18	—	36	修士（臨床心理学）	0.94	平成13年度		
人間科学専攻									
修士課程	2	3	—	6	修士（人間科学）	0.49	平成13年度		
福祉・臨床心理学専攻									
博士後期課程	3	3	—	9	博士（人間学）	0.66	平成13年度		
文学研究科									
宗教学専攻									
博士前期課程	2	5	—	10	修士（文学）	1.00	昭和27年度		
博士後期課程	3	2	—	6	博士（文学）	0.50	昭和32年度		
史学専攻									
博士前期課程	2	10	—	20	修士（文学）	0.65	昭和54年度		
博士後期課程	3	2	—	6	博士（文学）	1.00	昭和54年度		
国文学専攻									
博士前期課程	2	3	—	6	修士（文学）	0.66	昭和27年度		
博士後期課程	3	2	—	6	博士（文学）	0.66	昭和32年度		
比較文化専攻						0.33			
博士前期課程	2	3	—	6	修士（文学）	0.33	平成9年度		
博士後期課程	3	2	—	6	博士（文学）	0	平成11年度		

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者（学校法人等）が設置している全ての大学（学部、学科）、大学院（専攻）及び短期大学（学科）（AC対象学部等含む）について、それぞれの学校種ごとに、平成28年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに記入してください。
 - ※「入学定員を定めている組織ごと」には、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ※なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている組織上の最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」）でも記載してください。
 - ・専攻科に係るものについては、記入する必要はありません。
 - ・AC対象学部等についても必ず記入してください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点以下第2位まで（小数点以下第3位を切り捨て）を記入してください。
 - ・学生募集を停止している学部等がある場合、入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「—」とし、「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。

5 教員組織の状況

<文学部 日本文学科>

(1) 担当教員表

設置時の計画					変更状況					備考	
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名		
専	教授(文学部長)	オオバ アキラ 大場 朗 (61)	平成27年4月	文化の探究 E 基礎国語 B 日本文学基礎論 古典文学研究 III 古典文学研究 IV 日本文学課題研究 I 日本文学課題研究 II 日本文学課題研究 III 日本文学課題研究 IV					古典文学研究 VII 古典文学研究 VIII	教育の質の向上を目的として科目を追加 (27)	
					兼任	講師	ユイ キョウコ 由井 (荻原) 恭子 (43)	平成27年4月	基礎国語 B	教育効果の観点から担当者を変更。大場朗教授(文学部長)(専)→由井(荻原)恭子講師(兼任)(27)	
					兼任	教授(日本文学科長)	ユイ キョウコ 由井 (荻原) 恭子 (44)	平成28年9月	文化の探究 E	任期満了に伴い学部長変更。大場朗教授(専)→小林伸二教授(兼任)(28) 任期満了に伴い学部長変更。山内洋准教授(専)→大場朗教授(専)(28)	
					兼任	講師	ユイ キョウコ 由井 (荻原) 恭子 (44)	平成28年9月	文化の探究 E	教育効果の観点から担当者を変更。大場朗教授(専)→由井(荻原)恭子講師(兼任)(28)	
専	教授	イトウ マサミツ 伊藤 雅光 (59)	平成27年4月	文化の探究 E 基礎ゼミナール I 基礎ゼミナール II 基礎ゼミナール III 基礎ゼミナール IV 日本語基礎論 基礎日本語 III 基礎日本語 IV 日本語学課題研究 I 日本語学課題研究 II 日本語学課題研究 III 日本語学課題研究 IV	兼任	教授	イトウ ヨシコ 伊藤 淑子 (55)	平成27年4月	文化の探究 E	教育効果の観点から担当者を変更。伊藤雅光教授(専)→伊藤淑子教授(兼任)(27)	
					兼任	講師	ナカガワ シュウタ 中川 秀太 (38)	平成28年4月	基礎ゼミナール I 基礎ゼミナール II	教育効果の観点から担当者を変更。伊藤雅光教授(専)→中川秀太講師(兼任)(28)	
専	教授	ミスミ ヨウイチ 三角 洋一 (67)	平成27年4月	日本文化総論 古典文学研究 III 古典文学研究 IV 仏教文学 I 仏教文学 II 日本漢文学	専	准教授	ヤマモト アキヒロ 山本 章博 (41)	平成28年4月	日本漢文学	体調不良のため担当者変更。三角洋一教授(専)→山本章博准教授(専)(28)	
専	准教授	ヤマウチ ヨウ 山内 洋 (54)	平成27年4月	基礎技法 A-1 基礎技法 A-2 基礎技法 A-3 基礎技法 A-4 日本語研究 A 基礎ゼミナール I 基礎ゼミナール II 基礎ゼミナール III 基礎ゼミナール IV 近代文学研究 II 日本文学課題研究 I 日本文学課題研究 II 日本文学課題研究 III 日本文学課題研究 IV		准教授(日本文学科長)					学部の学科の設置に伴い平成27年4月1日就任(27)
					兼任	講師	サカマキ リエコ 坂巻 理恵子 (50)	平成27年9月	基礎技法 A-2	教育効果の観点から担当者を変更。山内洋准教授(日本文学科長)(専)→坂巻理恵子講師(兼任)(27)	
					兼任	准教授	ハタケヤマ ヨシオ 畠山 仁男 (58)	平成27年4月	基礎技法 A-3	教育効果の観点から担当者を変更。山内洋准教授(日本文学科長)(専)→畠山仁男准教授(兼任)(27)	
						准教授				任期満了に伴い学部長変更。山内洋准教授(専)→大場朗教授(専)(28)	
					兼任	講師	サイトウ トモアキ 齋藤 知明 (32)	平成28年9月	基礎技法 A-2	教育効果の観点から担当者を変更。坂巻理恵子講師(兼任)→齋藤知明講師(兼任)(28)	
					専	教授	コジマ トモユシ 小嶋 知善 (60)	平成28年9月	基礎技法 A-4	教育効果の観点から担当者を変更。山内洋准教授(専)→小嶋知善教授(専)(28)	
					兼任	講師	ヤスハラ マコト 安原 真琴 (48)	平成28年4月	基礎ゼミナール III 基礎ゼミナール IV	教育効果の観点から担当者を変更。山内洋准教授(専)→安原真琴講師(兼任)(28)	

専	准教授	ウメザワ アユミ 梅澤 (山中) 亜由美 (45)	平成27年 4月	文化の探究 F 基礎技法 A-1 基礎技法 A-2 基礎技法 A-3 基礎技法 A-4 基礎ゼミナール I 基礎ゼミナール II 基礎ゼミナール III 基礎ゼミナール IV 基礎日本文学 IV 近代文学研究 I 日本文学課題研究 I 日本文学課題研究 II 日本文学課題研究 III 日本文学課題研究 IV					基礎技法 A-1	適正人数を考慮し担当者を減。「基礎技法 A-1」は、他に担当者が2名いるため、支障はない (27)	
					兼任	講師	コンドウ ヒデカズ 近藤 秀和 (39)	平成27年 9月	基礎技法 A-2	教育効果の観点から担当者を変更。梅澤 (山中) 亜由美准教授 (専) → 近藤秀和講師 (兼任) (27)	
					兼任	講師	タカハシ ワカギ 高橋 若木 (35)	平成27年 4月	基礎技法 A-3	教育効果の観点から担当者を変更。梅澤 (山中) 亜由美准教授 (専) → 高橋若木講師 (兼任) (27)	
										文化の探究 F	適正人数を考慮し担当者を減。「文化の探究 F」は、他に担当者がいるため、支障はない (28)
										基礎技法 A-2	適正人数を考慮し担当者を減。「基礎技法 A-2」は、他に担当者がいるため、支障はない (28)
					兼任	助教	ヒゲタ タケン 日下田 岳史 (33)	平成28年 4月	基礎技法 A-3	教育効果の観点から担当者を変更。高橋若木講師 (兼任) → 日下田岳史助教 (兼任) (28)	
兼任	講師	ナカガワ シュウタ 中川 秀太 (38)	平成28年 9月	基礎技法 A-4	教育効果の観点から担当者を変更。梅澤 (山中) 亜由美准教授 (専) → 中川秀太講師 (兼任) (28)						
専	准教授	ヤマモト アキヒロ 山本 章博 (40)	平成27年 4月	基礎技法 A-1 基礎技法 A-2 基礎技法 A-3 基礎技法 A-4 基礎ゼミナール I 基礎ゼミナール II 基礎ゼミナール III 基礎ゼミナール IV 基礎日本文学 III 古典文学研究 I 日本文学課題研究 I 日本文学課題研究 II 日本文学課題研究 III 日本文学課題研究 IV					基礎技法 A-2	適正人数を考慮し担当者を減。「基礎技法 A-2」は、他に担当者が2名いるため、支障はない (27)	
					兼任	講師	サイトウ トモアキ 齋藤 知明 (31)	平成27年 4月	基礎技法 A-3	教育効果の観点から担当者を変更。山本章博准教授 (専) → 齋藤知明講師 (兼任) (27)	
										基礎技法 A-4	適正人数を考慮し担当者を減。「基礎技法 A-4」は、他に担当者が2名いるため、支障はない (27)
					兼任	講師	ナカガワ シュウタ 中川 秀太 (38)	平成28年 4月	基礎技法 A-1	教育効果の観点から担当者を変更。山本章博准教授 (専) → 中川秀太講師 (兼任) (28)	
					専	教授	オオバ アキラ 大場 朗 (62)	平成28年 4月	基礎ゼミナール I 基礎ゼミナール II	教育効果の観点から担当者を変更。山本章博准教授 (専) → 大場朗教授 (専) (28)	
										日本漢文学	体調不良のため担当者変更。三角洋一教授 (専) → 山本章博准教授 (専) (28)
兼任	教授	カツザキ ユウゲン 勝崎 裕彦 (68)	平成27年 4月	日本文化研修	兼任	教授	オオツカ ノブオ 大塚 伸夫 (58)	平成28年 4月	日本文化研修	学長任期満了のため担当者を変更。勝崎裕彦教授 (兼任) → 大塚伸夫教授 (兼任) (28)	
兼任	教授	イトウ ヨシコ 伊藤 淑子 (55)	平成27年 4月	文化の探究 F カルチュラルスタ ディーズ総論	兼任	教授	オオノ ミチオ 大野 道夫 (59)	平成27年 9月	文化の探究 F	教育効果の観点から担当者を変更。伊藤淑子教授 (専) → 大野道夫教授 (兼任) (27)	
										文化の探究 E	教育効果の観点から担当者を変更。伊藤雅光教授 (専) → 伊藤淑子教授 (兼任) (27)
					兼任	准教授	カンダツ テジュン 神達 知純 (46)	平成28年 9月	文化の探究 F	教育効果の観点から担当者を変更。大野道夫教授 (兼任) → 神達知純教授 (兼任) (28)	

兼任	教授	コジマ トモヨシ 小嶋 知善 (59)	平成27年 4月	基礎日本文学Ⅰ 基礎日本文学Ⅱ 近代文学研究Ⅲ 近代文学研究Ⅳ	専					所属異動に伴い配置変更 (28)	
									基礎技法 A-4	教育効果の観点から担当者を変更。 山内洋准教授(専)→小嶋知善教授 (専) (28)	
兼任	教授	サイゴウ ヤスユキ 西郷 泰之 (60)	平成27年 4月	社会の探究 A	兼任	講師	サイトウ フユキ 斎藤 富由起 (48)	平成27年 4月	社会の探究 A	教育効果の観点から担当者を変更。 西郷泰之教授(兼任)→斎藤富由起 講師(兼任) (27)	
兼任	教授	アオキ アキラ 青木 聡 (46)	平成27年 4月	社会の探究 B	兼任	講師	サイトウ フユキ 斎藤 富由起 (48)	平成27年 4月	社会の探究 B	教育効果の観点から担当者を変更。 青木聡教授(兼任)→斎藤富由起 講師(兼任) (27)	
兼任	教授	オキクラ トモミ 沖倉 智美 (46)	平成27年 4月	社会の探究 B							
兼任	教授	ユミヤマ タツヤ 弓山 達也 (52)	平成27年 4月	社会の探究 E 社会の探究 F	兼任	講師	スズキ シンレイ 鈴木 晋伶 (54)	平成27年 9月	社会の探究 F	教育効果の観点から担当者を変更。 弓山達也教授(兼任)→鈴木晋伶 講師(兼任) (27)	
											平成27年 9月 弓山達也教授(兼任)一身上の都合 により退職 (28)
					兼任	講師	スズキ シンレイ 鈴木 晋伶 (55)	平成28年 4月	社会の探究 E	教育効果の観点から担当者を変更。 弓山達也講師(兼任)→鈴木晋伶 講師(兼任) (28)	
兼任	教授	ハヤシダ コウジュン 林田 康順 (49)	平成27年 4月	文化の探究 B							
兼任	教授	シラキ タイチ 白木 太一 (55)	平成27年 4月	文化の探究 C							
兼任	教授	ナルセ カツオ 成瀬 活雄 (51)	平成27年 4月	社会の探究 C	兼任	講師	オオヒラ マサミ 大平 雅美 (54)	平成27年 4月	社会の探究 C	教育効果の観点から担当者を変更。 成瀬活雄教授(兼任)→大平雅美 講師(兼任) (27)	
兼任	教授	ミヤザキ ヨウイチ 宮崎 洋一 (55)	平成27年 4月	文化の探究 D	兼任	講師	シナイ カズオ 椎名 一雄 (62)	平成27年 4月	文化の探究 D	教育効果の観点から担当者を変更。 宮崎洋一教授(兼任)→椎名一雄 講師(兼任) (27)	
兼任	教授	コバヤシ シンジ 小林 伸二 (53)	平成27年 4月	文化の探究 D		教授 (文 学 部 長)				任期満了に伴い学部長変更。大場朗 教授(専)→小林伸二教授(兼 担)。(28)	
兼任	教授	モトヤマ コウジュ 元山 公寿 (55)	平成27年 4月	文化の探究 G 文化の探究 H	兼任	講師	コバヤシ ジョウテン 小林 靖典 (52)	平成27年 9月	文化の探究 G	教育効果の観点から担当者を変更。 元山公寿教授(兼任)→小林靖典 講師(兼任) (27)	
					兼任	講師	アベ タカコ 阿部 貴子 (46)	平成28年 9月	文化の探究 G	教育効果の観点から担当者を変更。 小林靖典講師(兼任)→阿部貴子 講師(兼任) (28)	
					兼任	准教授	キムラ シュウジョウ 木村 周誠 (55)	平成27年 4月	文化の探究 H	教育効果の観点から担当者を変更。 元山公寿教授(兼任)→木村周誠 准教授(兼任) (27)	
兼任	教授	タカハシ シュウユウ 高橋 秀裕 (60)	平成27年 4月	自然の探究 A 自然の探究 B 自然の探究 F	兼任	教授	ウチダ エイジ 内田 英二 (52)	平成27年 4月	自然の探究 B	教育効果の観点から担当者を変更。 高橋秀裕教授(兼任)→内田英二 教授(兼任) (27)	
					兼任	講師	ムロヤマ テツヤ 室山 哲也 (61)	平成27年 4月	自然の探究 F	教育効果の観点から担当者を変更。 高橋秀裕教授(兼任)→室山哲也 講師(兼任) (27)	
兼任	教授	ウチダ エイジ 内田 英二 (52)	平成27年 4月	自然の探究 C						教育効果の観点から担当者を変更。 高橋秀裕教授(兼任)→内田英二 教授(兼任) (27)	

兼任	教授	ハラ ヨシオ 原 芳生 (64)	平成27年 4月	自然の探究 D 自然の探究 E	兼任	講師	カツイ ケイコ 勝井 恵子 (30)	平成27年 4月	自然の探究 E	教育効果の観点から担当者を変更。 原芳生教授(兼任)→勝井恵子講師 (兼任) (27)
兼任	教授	ヨシダ トシヒロ 吉田 俊弘 (59)	平成27年 4月	基礎社会 I 基礎社会 II 基礎社会 III 基礎社会 IV						
兼任	教授	シャウマン ヴェ ルナー (66)	平成27年 4月	世界の言語 (ドイツ語) 1 世界の言語 (ドイツ語) 2 世界の言語 (ドイツ語) 3 世界の言語 (ドイツ語) 4	兼任	講師	クラニシ ケンイチ 倉西 憲一 (40)	平成27年 4月	世界の言語 (ドイツ語) 1 世界の言語 (ドイツ語) 2 世界の言語 (ドイツ語) 3	逝去により、担当者を変更。シャウマンベルナー教授(兼任)→倉西憲一講師(兼任) (27)
					兼任	講師	シゲノ ジュンコ 重野 純子 (41)	平成27年 9月	世界の言語 (ドイツ語) 4	逝去により、担当者を変更。シャウマンベルナー教授(兼任)→重野純子講師(兼任) (27)
兼任	准教授	ウスキ エツオ 臼木 悦生 (49)	平成27年 4月	哲学・思想基礎論 地域連携貢献論 A					地域連携・貢献論	科目名称を「地域連携貢献論 A」から「地域連携・貢献論」に変更 (27)
					兼任	教授	シバ ハルヒデ 司馬 春英 (65)	平成28年 9月	哲学・思想基礎論	教育効果の観点から担当者を変更。 臼木悦生准教授(兼任)→司馬春英教授(兼任) (28)
兼任	准教授	テラダ ヨシロウ 寺田 喜朗 (42)	平成27年 4月	宗教文化論		教授				昇格により職名を変更。准教授→教授 (28)
兼任	准教授	ヤマダ ジュンジ 山田 潤治 (44)	平成27年 4月	英語 1 英語 2 英語 3 英語 4 表現文化論	兼任	准教授	フシキ カオリ 伏木 香織 (43)	平成27年 4月	表現文化論	教育効果の観点から担当者を変更。 山田潤治准教授(兼任)→伏木香織准教授(兼任) (27)
					兼任	講師	オオツカ ミチコ 大塚 道子 (61)	平成28年 4月	英語 1 英語 2 英語 3 英語 4	教育効果の観点から担当者を変更。 山田潤治准教授(兼任)→大塚道子講師(兼任) (28)
兼任	准教授	カツノ リュウコウ 勝野 隆広 (54)	平成27年 4月	文化の探究 G 文化の探究 H	兼任	准教授	ソネ ノブオ 曾根 宣雄 (50)	平成27年 4月	文化の探究 H	教育効果の観点から担当者を変更。 勝野隆広准教授(兼任)→曾根宣雄准教授(兼任) (27)
兼任	准教授	ヤマウチ アケミ 山内 明美 (39)	平成27年 4月	文化の探究 I 地域連携貢献論 A					地域連携・貢献論	科目名称を「地域連携貢献論 A」から「地域連携・貢献論」に変更 (27)
兼任	准教授	フシキ カオリ 伏木 香織 (43)	平成27年 4月	文化の探究 I					表現文化論	教育効果の観点から担当者を変更。 山田潤治准教授(兼任)→伏木香織准教授(兼任) (27)
兼任	准教授	ハタケヤマ ヨシオ 畠山 仁男 (58)	平成27年 4月	基礎数学 I 基礎数学 II 基礎数学 III 基礎数学 IV					基礎技法 A-3	教育効果の観点から担当者を変更。 山内洋准教授(日本文学科長)(専)→畠山仁男准教授(兼任) (27)
兼任	准教授	モリ ハルヒコ 森 晴彦 (54)	平成27年 4月	技法 B (自己アピール)		教授				昇格により職名を変更。准教授→教授 (27)

兼任	講師	オオノ ジュンコ 大野 純子 (60)	平成27年 4月	日本語研究 A 日本語研究 B 日本語研究 C 日本語研究 D 日本語研究 E 日本語研究 F 日本語研究 G 日本語研究 H 日本語研究 I						
兼任	講師	ナガシマ ジュンドウ 長島 潤道 (43)	平成27年 4月	英語 1 英語 2 英語 3 英語 4	兼任	講師	ピーター ライリー (67)	平成27年 4月	英語 1 英語 2	教育効果の観点から担当者を変更。 長島潤道講師(兼任)→ピーターライリー講師(兼任)(27)
兼任	講師	イタニ トモミ 井潤 知美 (49)	平成27年 4月	社会の探究 A		准教授				昇格により職名を変更。講師→准教授(27)
兼任	講師	イシハラ ヤスオミ 石原 康臣 (38)	平成27年 4月	社会の探究 C	兼任	講師	マツザキ ヤスヒロ 松崎 泰弘 (52)	平成27年 4月	社会の探究 C	教育効果の観点から担当者を変更。 石原康臣講師(兼任)→松崎泰弘講師(兼任)(27)
兼任	講師	ミウラ タツアキ 三浦 龍昭 (40)	平成27年 4月	文化の探究 C		准教授				昇格により職名を変更。講師→准教授(27)
兼任	講師	ナカガワ ジンキ 中川 仁喜 (37)	平成27年 4月	文化の探究 C	兼任	講師				教育効果の観点から担当者を変更。 三浦龍昭准教授(兼任)→中川仁喜講師(兼任)(27)
兼任	助教	ヒグタ タケシ 日下田 岳史 (33)	平成27年 4月	自然の探究 A					基礎技法 A-3	教育効果の観点から担当者を変更。 高橋若木講師(兼任)→日下田岳史助教(兼任)(28)
兼任	講師	ユイ キョウコ 由井(萩原) 恭子 (43)	平成27年 4月	基礎技法 B-1 基礎技法 B-2 基礎技法 B-3 基礎技法 B-4					教養ゼミ(ショートプログラム)	教育の質の向上を目的として科目を追加(27)
兼任	講師	ユイ キョウコ 由井(萩原) 恭子 (43)	平成27年 4月	基礎技法 B-1 基礎技法 B-2 基礎技法 B-3 基礎技法 B-4					基礎国語 B	教育効果の観点から担当者を変更。 大場朗教授(文学部長)(専)→由井(萩原) 恭子講師(兼任)(27)
兼任	講師	ユイ キョウコ 由井(萩原) 恭子 (43)	平成27年 4月	基礎技法 B-1 基礎技法 B-2 基礎技法 B-3 基礎技法 B-4					技法 A(論理力)	就任辞退のため、担当者を変更。伊藤優子講師(兼任)→由井(萩原) 恭子講師(兼任)(27)
兼任	講師	ユイ キョウコ 由井(萩原) 恭子 (43)	平成27年 4月	基礎技法 B-1 基礎技法 B-2 基礎技法 B-3 基礎技法 B-4					文化の探究 E	教育効果の観点から担当者を変更。 大場朗教授→由井(萩原) 恭子講師(兼任)(28)
兼任	講師	コンドウ ヒロコ 近藤(木村) 裕子 (45)	平成27年 4月	基礎技法 B-1 基礎技法 B-2 基礎技法 B-3 基礎技法 B-4						平成27年 3月 ハンソンリーバイ助教(兼任)一身上の都合により退職(27)
兼任	助教	ハンソン リーバイ (37)	平成27年 4月	英会話 I 英会話 II 英会話 III 英会話 IV	兼任	講師	シェリー ピアーズ (54)	平成27年 4月	英会話 I 英会話 II 英会話 III 英会話 IV	退職のため、担当者を変更。ハンソンリーバイ助教(兼任)→シェリーピアーズ講師(兼任)(27)
兼任	講師	ホシノ ソウ 星野 壮 (39)	平成27年 4月	文化人類学						
兼任	講師	ミヤザキ ユミ 宮崎 由美 (39)	平成27年 4月	基礎日本語 I 基礎日本語 II 日本語学 III 日本語学 IV						

兼任	講師	ウオオ ユキヒサ 魚尾 孝久 (65)	平成27年 4月	基礎国語 A 文章技法 A 古典文学研究 V 古典文学研究 VI	兼任	講師	サカマキ リエコ 坂巻 理恵子 (50)	平成27年 4月	基礎国語 A	教育効果の観点から担当者を変更。 魚尾孝久講師(兼任)→坂巻理恵子 講師(兼任)(27)
兼任	講師	スズキ ハルコ 鈴木 治子 (58)	平成27年 4月	文章技法 B 詩歌研究 I 詩歌研究 II 日本文学課題研究 I 日本文学課題研究 II 日本文学課題研究 III 日本文学課題研究 IV					文章技法 A	就任辞退のため、担当者を変更。白 寄まゆみ講師(兼任)→鈴木治子講 師(兼任)(27)
兼任	講師	サイトウ ヒデアキ 齋藤 秀昭 (44)	平成27年 4月	近代文学研究 V 近代文学研究 VI	兼任	講師	ニシダ ミドリ 西田 みどり (65)	平成28年 4月	文章技法 A	教育効果の観点から担当者を変更。 鈴木治子講師(兼任)→西田みどり 講師(兼任)(28)
兼任	講師	ヤマモト シンゴ 山本 真吾 (53)	平成27年 4月	日本語学研究 I 日本語学研究 II 日本語学課題研究 III 日本語学課題研究 IV	兼任	講師	オカダ カオル 岡田 薫 (57)	平成27年 4月	日本語学課題研究 III 日本語学課題研究 IV	教育効果の観点から担当者を変更。 山本真吾講師(兼任)→岡田薫講師 (兼任)(27)
兼任	講師	ウメタニ ヒロユキ 梅谷 博之 (42)	平成27年 4月	音声学研究 I 音声学研究 II 言語学研究 I 言語学研究 II	兼任	講師	オカダ カオル 岡田 薫 (58)	平成28年 4月	音声学研究 I 音声学研究 II	平成28年 3月 梅谷博之講師(兼任)一身上の都合 により就任辞退(28) 就任辞退のため担当者を変更。梅谷 博之講師(兼任)→岡田薫講師(兼 任)(28)
兼任	講師	オカダ カオル 岡田 薫 (57)	平成27年 4月	日本語学課題研究 I 日本語学課題研究 II	兼任	講師	キムラ ヨシユキ 木村 義之 (52)	平成28年 4月	言語学研究 I 言語学研究 II	就任辞退のため担当者を変更。梅谷 博之講師(兼任)→木村義之講師 (兼任)(28)
兼任	講師	オオヤ マサノリ 大屋 正順 (32)	平成27年 4月	書写技術研究 A 書写技術研究 B					日本語学課題研究 III 日本語学課題研究 IV	教育効果の観点から担当者を変更。 山本真吾講師(兼任)→岡田薫講師 (兼任)(27)
兼任	講師	ヤマナシ ユキコ 山梨 有希子 (42)	平成27年 4月	文化の探究 A 社会の探究 E 社会の探究 F	兼任	教授	シバ ハルヒデ 司馬 春英 (64)	平成27年 9月	文化の探究 A	教育効果の観点から担当者を変更。 山梨有希子講師(兼任)→司馬春英 教授(兼任)(27)
兼任	講師	マツノ トモアキ 松野(我妻) 智章 (44)	平成27年 4月	文化の探究 A 文化の探究 B					音声学研究 I 音声学研究 II	就任辞退のため担当者を変更。梅谷 博之講師(兼任)→岡田薫講師(兼 任)(28)
兼任	講師	ヤマシタ ユウイチロウ 山下 裕一郎 (43)	平成27年 4月	社会の探究 D 基礎技法 C 情報処理 B-1 (エクセル) 情報処理 B-2 (エクセル)					情報処理 B-2 (エ クセル)	就任辞退のため、担当者を変更。馬 場敏見講師(兼任)→山下裕一講師 師(兼任)(27)
兼任	講師	オオヒラ マサミ 大平 雅美 (53)	平成27年 4月	社会の探究 D					社会の探究 D	適正人数を考慮し担当者減。「社 会の探究 D」は、他に担当者が 1 名 いるため、支障はない(27)
									社会の探究 C	教育効果の観点から担当者を変更。 成瀬活雄教授(兼任)→大平雅美講 師(兼任)(27)

兼任	講師	マツザキ ヨシサト 松崎 慈恵 (52)	平成27年4月	社会の探究H 社会の探究I	兼任	講師	オカダ マサキ 岡田 理樹 (56)	平成27年4月	社会の探究H	教育効果の観点から担当者を変更。 松崎慈恵講師(兼任)→岡田理樹講 師(兼任)(27)	
											平成28年3月 松崎慈恵講師(兼任)一身上の都合 により就任辞退(28)
					兼任	教授	タカハシ マサヒロ 高橋 正弘 (47)	平成28年4月	社会の探究I	就任辞退のため、担当者を変更。松 崎慈恵講師(兼任)→高橋正弘教授 (兼任)(28)	
兼任	講師	ナカニシ アケミ 中西 明美 (45)	平成27年4月	自然の探究C						平成27年3月 中西明美講師(兼任)一身上の都合 により就任辞退(27)	
					兼任	講師	イナバ アキコ 稲葉 明子 (38)	平成27年4月	自然の探究C	就任辞退のため、担当者を変更。中 西明美講師(兼任)→稲葉明子講師 (兼任)(27)	
兼任	講師	ハバ トシミ 馬場 敏見 (55)	平成27年4月	基礎技法C 情報処理A-1 (ワード) 情報処理A-2 (ワード) 情報処理B-1 (エクセル) 情報処理B-2 (エクセル) 情報処理D(デー タベース)						平成27年3月 馬場敏見講師(兼任)一身上の都合 により就任辞退(27)	
					兼任	講師	シモムラ エイシン 霜村 敏真 (50)	平成27年4月	基礎技法C 情報処理A-2 (ワード)	就任辞退のため、担当者を変更。馬 場敏見講師(兼任)→霜村敏真講師 (兼任)(27)	
					兼任	講師	チカウチ クミコ 近内 久美子 (48)	平成27年4月	情報処理A-1 (ワード)	就任辞退のため、担当者を変更。馬 場敏見講師(兼任)→近内久美子講 師(兼任)(27)	
					兼任	講師	フジイ サワコ 藤井 佐和子 (49)	平成27年4月	情報処理B-1(エ クセル)	就任辞退のため、担当者を変更。馬 場敏見講師(兼任)→藤井佐和子講 師(兼任)(27)	
					兼任	講師	ヤマシタ ユウイチロウ 山下 裕一朗 (43)	平成27年4月	情報処理B-2(エ クセル)	就任辞退のため、担当者を変更。馬 場敏見講師(兼任)→山下裕一朗講 師(兼任)(27)	
							後任未定		情報処理D(デー タベース)	就任辞退。春学期は履修希望者少数 により未開講のため支障はない。秋 学期に向け、後任を補充予定(27)	
					兼任	講師	シモムラ エイシン 霜村 敏真 (51)	平成28年4月	情報処理D(デー タベース)	担当者変更。後任未定→霜村敏真講 師(兼任)(28)	
兼任	講師	イトウ ユウコ 伊藤 優子 (54)	平成27年4月	基礎国語A 技法A(論理力)						平成27年3月 伊藤優子講師(兼任)一身上の都合 により就任辞退(27)	
					兼任	講師	サカマキ リエコ 坂巻 理恵子 (50)	平成27年4月	基礎国語A	就任辞退のため、担当コマ数を振り 替え。伊藤優子講師(兼任)→坂巻 理恵子講師(兼任)(27)	
					兼任	講師	ユイ キョウコ 由井(荻原) 恭子 (43)	平成27年9月	技法A(論理力)	就任辞退のため、担当者を変更。伊 藤優子講師(兼任)→由井(荻原) 恭子講師(兼任)(27)	

兼任	講師	シモムラ エイシン 霜村 敬真 (49)	平成27年 4月	情報処理 A-1 (ワード) 情報処理 A-2 (ワード)					基礎技法 C 情報処理 A-2 (ワード)	就任辞退のため、担当者を変更。馬場敏見講師(兼任)→霜村敬真講師(兼任)(27)
									情報処理 D (データベース)	担当者変更。後任未定→霜村敬真講師(兼任)(28)
兼任	講師	フジイ サワコ 藤井 佐和子 (49)	平成27年 4月	情報処理 C (プレゼンテーション)					情報処理 B-1 (エクセル)	就任辞退のため、担当者を変更。馬場敏見講師(兼任)→藤井佐和子講師(兼任)(27)
									情報処理 C (プレゼンテーション)	教育効果の観点から担当者を変更。担当コマ数を振り替え。近内久美子講師(兼任)→藤井佐和子講師(兼任)(27)
兼任	講師	チカウチ クミコ 近内 久美子 (48)	平成27年 4月	情報処理 C (プレゼンテーション)	兼任	講師	フジイ サワコ 藤井 佐和子 (49)	平成27年 4月	情報処理 C (プレゼンテーション)	教育効果の観点から担当者を変更。担当コマ数を振り替え。近内久美子講師(兼任)→藤井佐和子講師(兼任)(27)
兼任	講師	ナイトウ エイコ 内藤 栄子 (63)	平成27年 4月	応用英語 1 応用英語 2						
兼任	講師	ジョー ゲイシン 徐 迎新 (59)	平成27年 4月	世界の言語 (中国語) 1 世界の言語 (中国語) 2						
兼任	講師	モリヤマ マキコ 森山 真樹子 (70)	平成27年 4月	世界の言語 (中国語) 1 世界の言語 (中国語) 2 世界の言語 (中国語) 3 世界の言語 (中国語) 4						平成27年 3月 森山真樹子講師(兼任) 定年により退職 (27)
					兼任	講師	チイ ホン 漆 紅 (57)	平成27年 4月	世界の言語 (中国語) 1 世界の言語 (中国語) 2	退職のため、担当者を変更。森山真樹子講師(兼任)→漆紅講師(兼任)(27)
					兼任	講師	シミズ ヒロコ 清水 浩子 (67)	平成27年 4月	世界の言語 (中国語) 3 世界の言語 (中国語) 4	退職のため、担当者を変更。森山真樹子講師(兼任)→清水浩子講師(兼任)(27)
兼任	講師	コウ レイケイ 孔 令敬 (59)	平成27年 4月	世界の言語 (中国語) 3 世界の言語 (中国語) 4 中国語会話 I						

兼任	講師	ヤマザキ シロウ 山崎 史郎 (68)	平成27年 4月	世界の言語 (フランス語) 1 世界の言語 (フランス語) 2 世界の言語 (フランス語) 3 世界の言語 (フランス語) 4						
兼任	講師	ミヤジマ シュンイチ 宮嶋 俊一 (48)	平成27年 4月	世界の言語 (ドイツ語) 1 世界の言語 (ドイツ語) 2 世界の言語 (ドイツ語) 3 世界の言語 (ドイツ語) 4						平成27年 3月 宮嶋俊一 講師 (兼任) 一身上の都合により就任辞退 (27)
					兼任	講師	シゲノ ジュンコ 重野 純子 (41)	平成27年 4月	世界の言語 (ドイツ語) 1 世界の言語 (ドイツ語) 2	就任辞退のため、担当者を変更。宮嶋俊一講師 (兼任) → 重野純子講師 (兼任) (27)
									世界の言語 (ドイツ語) 3 世界の言語 (ドイツ語) 4	就任辞退。適正人数を考慮し担当者を減。「世界の言語 (ドイツ語) 3」、「世界の言語 (ドイツ語) 4」は、他に担当者が1名いるため、支障はない (27)
兼任	講師	クワン チェスク 権 在淑 (60)	平成27年 4月	世界の言語 (韓国語) 1 世界の言語 (韓国語) 2 世界の言語 (韓国語) 3 世界の言語 (韓国語) 4						
兼任	講師	ミワ 三輪 イルマ (57)	平成27年 4月	世界の言語 (スペイン語) 1 世界の言語 (スペイン語) 2 世界の言語 (スペイン語) 3 世界の言語 (スペイン語) 4						
兼任	講師	ハシモト タイゲン 橋本 泰元 (61)	平成27年 4月	世界の言語 (ヒンディ語) 1 世界の言語 (ヒンディ語) 2 世界の言語 (ヒンディ語) 3 世界の言語 (ヒンディ語) 4						
兼任	講師	レスリー コーブランド (41)	平成27年 4月	英会話 I 英会話 II 英会話 III 英会話 IV	兼任	講師	ピーター アニョン (64)	平成27年 4月	英会話 III 英会話 IV	教育効果の観点から担当者を変更。レスリーコーブランド講師 (兼任) → ピーターアニョン講師 (兼任) (27)
									英語 1 英語 2	教育効果の観点から担当者を変更。ピーターライリー講師 (兼任) → レスリーコーブランド講師 (兼任) (28)
兼任	講師	チョウ レイ 張 麗 (55)	平成27年 4月	中国語会話 II						
兼任	講師	シゲノ ジュンコ 重野 純子 (41)	平成27年 4月	ドイツ語会話 I ドイツ語会話 II					世界の言語 (ドイツ語) 4	逝去のため、担当者を変更。シャウマンベルナー教授 (兼任) → 重野純子講師 (兼任) (27)
									世界の言語 (ドイツ語) 1 世界の言語 (ドイツ語) 2	就任辞退のため、担当者を変更。宮嶋俊一講師 (兼任) → 重野純子講師 (兼任) (27)

										平成27年3月 白寄まゆみ講師（兼任）一身上の都合により就任辞退（27）
兼任	講師	シラヨリ マユミ 白寄 まゆみ (54)	平成27年4月	文章技法A	兼任	講師	スズキ ハルコ 鈴木 治子 (58)	平成27年4月	文章技法A	就任辞退のため、担当者を変更。白寄まゆみ講師（兼任）→鈴木治子講師（兼任）（27）
					兼任	講師	ニシゲ ミドリ 西田 みどり (65)	平成28年4月	文章技法A	教育効果の観点から担当者を変更。鈴木治子講師（兼任）→西田みどり講師（兼任）（28）
兼任	講師	セキ ヨシヒロ 関 義央 (36)	平成27年4月	社会の探究G						
兼任	講師	カセ アスカ 加瀬 明日香 (31)	平成27年4月	自然の探究G						
兼任	講師	カナオ ミホ 金尾 美穂 (37)	平成27年4月	自然の探究H 自然の探究I						
					兼任	教授 准教授	クボタ シンイチ 窪田 新一 (60)	平成27年9月	社会の探究I	適正人数を考慮し担当者を追加（27） 昇格により職名を変更。准教授→教授（28）
					兼任	講師	マツダ サナエ 松田 早苗 (53)	平成27年9月	自然の探究B	適正人数を考慮し担当者を追加（27） 平成28年3月 松田早苗講師（兼任）一身上の都合により就任辞退（28）
					兼任	講師	シノハラ ユウコ 篠原 優子 (46)	平成28年9月	自然の探究B	就任辞退のため、担当者を変更。松田早苗講師（兼任）→篠原優子講師（兼任）（28）
					兼任	講師	タヌマ ハルヒコ 田沼 晴彦 (63)	平成28年4月	自然の探究A	適正人数を考慮し担当者を追加（28）
					兼任	講師	タヌマ ヒデノリ 生方 秀紀 (68)	平成28年4月	自然の探究H	適正人数を考慮し担当者を追加（28）
					兼任	講師	ツナシマ タマミ 網島 珠美 (56)	平成28年4月	日本語研究E	適正人数を考慮し担当者を追加（28）
					兼任	講師	チー ホン 漆 紅 (58)	平成28年4月	日本語研究G	適正人数を考慮し担当者を追加（28）

- (注) ・ 申請書の様式第3号（その2の1）に準じて作成してください。
 なお、当該設置に係る学部、学科等に所属しない教員であって、全学共通、学部共通などの授業科目を担当する教員組織に所属している場合は、（〇〇学部 △△学科）の箇所を「共通」とし、表を分けて作成してください。
- ・ 後任が決まっていない場合には、「後任未定」と記入してください。
 - ・ 辞任者は「備考」に退職年月、氏名、理由を記入してください。
 - ・ 年齢は、「**設置時の計画**」には当該学部等の就任時における満年齢を、「**変更状況**」には平成28年5月1日現在の満年齢を記入してください。
 - ・ 教員を学年進行中に変更した又は変更する予定の場合（「新規採用」、「担当授業科目の変更」又は「昇格」をいう。）は、変更後の状況を記入するとともに、その理由、後任者が決まっていない場合は、「変更状況」の「氏名」に「後任未定」と記入し、及び今後の採用計画を「備考」に記入してください。
 - ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」、変更書を提出予定の場合は「〇年〇月変更書提出予定」と記入してください。
 なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「備考」に「（教員審査省略）」及びその変更の理由、変更年度（ ）書き等のみを記入してください。

(2) 専任教員数

(2) - ① 専任教員数

設置時の計画					現在（報告書提出時）の状況					現在（報告書提出時）の完成年度時の計画				
教授	准教授	講師	助教	計	教授	准教授	講師	助教	計(A)	教授	准教授	講師	助教	計(B)
3	3	0	0	6	4	3	0	0	7	4	3	0	0	7
(3)	(3)	(0)	(0)	(6)						[4]	[3]	[]	[0]	[7]

- (注) ・「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・「現在（報告書提出時）の状況」には、報告書提出年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・「現在（報告書提出時）の完成年度時の計画」には、報告書提出年度の5月1日現在、完成年度時に計画している教員数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) - ② 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢（歳）	報告書提出時（上記(A)）の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時（上記(B)）の教員うち、定年を延長して採用する教員数
65 歳	1 名	1 名

- (注) ・「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、平成28年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由	
		該当なし					
合計 (A)					後任補充状況の集計 (B)		
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
〇〇	人	必修	〇〇 科目	必修	〇〇 科目	必修	〇〇 科目
		選択	〇〇 科目	選択	〇〇 科目	選択	〇〇 科目
		自由	〇〇 科目	自由	〇〇 科目	自由	〇〇 科目
		計	〇〇 科目	計	〇〇 科目	計	〇〇 科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した**全ての専任教員**の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由	
		該当なし					
合計 (C)					後任補充状況の集計 (D)		
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
〇〇	人	必修	〇〇 科目	必修	〇〇 科目	必修	〇〇 科目
		選択	〇〇 科目	選択	〇〇 科目	選択	〇〇 科目
		自由	〇〇 科目	自由	〇〇 科目	自由	〇〇 科目
		計	〇〇 科目	計	〇〇 科目	計	〇〇 科目

- (注) ・ 一度就任した後に、辞任した**全ての専任教員**の辞任の理由を具体的に記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計 (A) + (C)		後任補充状況の集計 (B) + (D)					
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
〇〇	人	必修	〇〇 科目	必修	〇〇 科目	必修	〇〇 科目
		選択	〇〇 科目	選択	〇〇 科目	選択	〇〇 科目
		自由	〇〇 科目	自由	〇〇 科目	自由	〇〇 科目
		計	〇〇 科目	計	〇〇 科目	計	〇〇 科目

- (注) ・ 就任辞退（未就任）及び辞任した全専任教員について、教員数、担当科目数の合計、後任補充の状況を記入ください。

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

(注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください

6 留意事項等に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項 等		履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時 (平成27年4月)	該当なし			
設置計画履行状況 調 査 時 (平成28年2月)	該当なし			
設置計画履行状況 調 査 時 (□□年2月)			改善意見	
設置計画履行状況 調 査 時 (●●年2月)			〇〇意見	

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時（認可時又は届出時）に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
 - ・ 定員管理に係る留意事項への履行状況は、指摘を受けた学科等についてのみ記入してください。
 - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」の（年月）には、調査結果を公表した月（通常2月）を記入してください。（実地調査や面接調査を実施した日ではありません。）

7 その他全般的事項

<文学部 日本文学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし	

- (注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
 ・ 設置時の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。（記入例参照）

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

本学における教員の資質の維持向上は、TSRマネジメント推進機構に置かれている教育開発推進センターを主体として行っている。本センターは、セルフマネジメント教育の開発・推進、基礎学力の向上、共通教育科目の開発推進等を目的としており、学修の目的とその成果を明確化するためにシラバスへの到達目標、事前事後学習内容の記載やルーブリック評価の活用を行っている。

また、これらの情報を集約していることから、教員の個の取り組みを共有し、新たな情報を提供することを目標とした全学的なFDを本センターが主体となり開催した。

あわせて、学長、副学長、学部長、研究科長、事務局長、学長補佐、教務部長及び学生部長をもって構成している教学運営協議会において審議した教育課程の編成及び運営に関する事項等を、コース教務主任連絡会を通じて学科・コースへ連絡することで、全学から学科・コース単位まで重層的なFD活動へつなげており、教員の資質の維持向上のための体制を整えている。

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

○教育開発推進センター（FD活動に関する会議）

春学期17回、秋学期14回、計31回開催。総合IR室長、FD担当教員、教務部長、教務課長が出席。

○コース教務主任連絡会

春学期4回、秋学期7回、計11回開催。委員は概ね毎回出席。

c 委員会の審議事項等

○教育開発推進センター（FD活動に関する会議）

- ・ FD活動の年間計画・企画、基礎技法Bに関する教授法の検討

○教務主任連絡会

- ・ 進級基準について
- ・ カリキュラム大綱・カリキュラム編成方針の検討
- ・ 自己点検・自己評価について
- ・ シラバスについて

② 実施状況

a 実施内容

- 「全学教育推進セミナー」FD・SD研修会の開催
- 公開授業の実施
- 学生による「授業評価アンケート」
- 各コースにおける「シラバス検討会」
- 教員による「授業自己点検報告書」「授業アンケートフィードバック」
- 新任専任教員事前研修会

b 実施方法

- 「全学教育推進セミナー」FD・SD研修会の開催
昨今の高等教育動向を理解するため、外部講師等を招聘して全教員・事務職員対象（任意参加）の研修会を定期的に実施。
- 公開授業の実施
人間学部教育人間学科の授業の一部を、教員・事務職員が参観可能な公開授業として実施。
- 学生による「授業評価アンケート」
春学期及び秋学期の授業期間中に、専任及び非常勤教員担当の全授業科目で実施。
- 各コースにおける「シラバス検討会」
コース毎に教員が集まり、DP達成のためのCPとの整合性を取りながら、次年度科目のシラバス内容を検討。
- 教員による「授業自己点検報告書」「授業アンケートフィードバック」
年度末に学生の「授業評価アンケート」結果を踏まえた上で、教員自身の授業自己点検及びフィードバックを実施。
- 新任専任教員事前研修会
新任の専任教員を対象として、学外講師による学生指導に関するワークショップを実施したほか、TSR（大正大学の社会的責任）、教育とそのマネジメント体制、ハラスメント防止、就職支援についての講義を実施。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

- 「全学教育推進セミナー」FD・SD研修会の開催
平成27年 7月22日
テーマ：第1部 カリキュラム・アセスメントの基本
第2部 カリキュラム・アセスメントチェックリスト作成
参加者：第1部 90名
第2部 20名
平成28年 2月15日
テーマ：第1部 カリキュラム・アセスメント応用①
第2部 カリキュラム・アセスメント応用②
参加者：第1部 60名
第2部 20名
平成28年 2月25日、26日
テーマ：平成28年度採用専任教員事前研修会
参加者：10名
- 公開授業の開催
平成28年1月19日 教育キャリアゼミナールⅡ、教育人間学基礎ゼミナールⅡ
- 学生による「授業評価アンケート」
春学期：7月 秋学期：1月

○各学科における「シラバス検討会」

実施：1月～2月 報告書提出：3月

出席：各学科ごとに全専任教員が参加

○教員による「授業自己点検報告書」「授業アンケートフィードバック」

実施：年度末 報告書提出：4月

○新任専任教員事前研修会

実施：平成28年2月25日、26日

出席：平成28年度新任教員9名

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

平成27年度FD活動の実施結果を踏まえ、平成28年度以降も継続的に実施する。

特に、これまで実施してきた全学的なFD活動に加えて、学部・学科・コースの特色や現状に沿ったきめ細やかなFD活動を企画する。これを達成するため、教員からの要望を集約し、今後のFD活動へと反映できるシステム・体制づくりを目指す。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

本学における、学生による授業評価アンケートは、組織的なFD活動の一環として実施。

このアンケートはPDCAサイクルのCheck部分にあたり、授業毎の具体的な効果や問題点を把握し、教育改善に役立てていくことを目的とする。

春学期（7月）及び秋学期（1月）の授業期間中に、専任及び非常勤教員担当の全授業科目で実施。

b 教員や学生への公開状況、方法等

実施済みアンケート用紙を委託事業者が回収し、集計する。

集計結果は教員配付用資料として、委託事業者より各教員へ郵送するとともに、冊子にまとめて刊行の上、教員に配付している。

教育に関する評価部会において実際の教育活動に資する具体的なフィードバック方法の検討や、次年度実施に向けての改善点に関する検討が行われている。

学生をはじめとした社会への公開については、本アンケートの趣旨、実施要項、調査票を明示したうえで、ホームページにおいて集計結果を公表している。

(注)・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

文学部日本文学科は、現代社会が要請する人材像を視野に入れ、複雑化・多様化する現代社会で幅広く活躍できるジェネラリストを育成することを目的として設置した。特に、日本文化の領域に関する豊かな教養と知識を兼ね備え、社会や地域の文化向上や活性化に貢献できる人材は、現代社会が常に必要とするところとなっている。また、豊かな感性とコミュニケーション能力をもってバランスの取れた思考と行動ができる人材養成も急務となっている。そこで、こうした社会的要請（学士力・社会人力）に応えるため、これまで本学が培ってきた長年の伝統と経験を活かしながら、時代に即応した人材育成に取り組むことが本学科の使命であると考えている。

平成26年度入試における文学部日本文学科日本語日本文学コースの志願者数が531名、平成27年度入試の志願者数が559名となっていたが、開設2年目の今年度は686名とさらに増加しており、本学科が目指す人材育成像と教育目標が、受験生に評価された結果であると考えている。今後も引き続き、届出時の教育内容を確実に履行し、上記の設置の趣旨・目的の達成を目指す。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

記入例)

- ・平成26年3月 公表

b 公表方法

記入例)

- ・『大正大学現状と課題2013』として刊行し、学内の教員・職員に配付。
- ・学外に対しては、ホームページ上で公表している。

③ 認証評価を受ける計画

これまでには、平成6年に財団法人大学基準協会の維持会員への申請を行い、平成7年度より維持会員となり、平成13年度に同協会の相互評価を受けてきた。そして平成18年度には、文部科学省の認証を受けた評価機関のひとつである同協会による大学評価（認証評価）を受け、大学基準に適合している旨の結果を得た。さらに、平成25年度に同協会による2度目の大学評価（認証評価）を受け、大学基準に適合していると認定された。認定期間は平成26年4月1日より平成33年3月末日までの7年間である。

今後は、同協会より公表された「大正大学に対する大学評価（認証評価）結果」において指摘された事項について改善計画を策定したうえで、確実に実行していく予定である。

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

a ホームページに公表の有無

(有 ・ 無)

b 公表時期（未公表の場合は予定時期）

(平成28年 5月 30日)